

国家基幹技術「海洋地球観測探査システム」の推進に関する 文部科学省の見解

平成 18 年 6 月 15 日
文 部 科 学 省
研 究 開 発 局

(1) 計画の妥当性

海洋地球観測探査システムを構成する各研究開発技術の目標については、分野別推進戦略において概ね明確化されているが、個々の研究開発分野において専門家による事前検討を行い、最終的に海洋地球観測探査システム推進本部（以下「推進本部」）において「国家基幹技術『海洋地球観測探査システム』実施戦略」（以下「実施戦略」）を策定し、関係機関が共有すべき開発計画を明確化した。この計画の検討に当たっては、国家基幹技術では科学技術的貢献を目指した研究開発だけでなく、出口指向型の研究推進体制が重要であることを踏まえ、ユーザーのニーズを汲み取る体制を構築することを明確化した。

研究期間については、全球地球観測システム（GEOSS）の 10 年実施計画を受け、地球規模の諸現象について、正確かつ広範な規模で観測情報を取得し、流通させるためのシステムを今後 10 年間で構築する必要があることから、関係機関と幅広い連携を図りつつ、計画的に観測プラットフォームの開発・運用、データ統合・解析システムの整備を行うこととしている。

また、第 3 期科学技術基本計画中の投入金額の見込み（平成 18 年度～22 年度までの総額）は、2,058 億円（現時点での試算であり、今後変更があり得る）であるが、他の観測手段との役割分担に十分留意しつつ技術開発を行うとともに、不断の見直し・精査により、総開発費及び運用段階における経費の適正化を図ることとしている。

(2) 体制の妥当性

海洋地球観測探査システム全体の司令塔として、文部科学省内に推進本部を設置した。推進本部は、文部科学省内の関係課室長、研究開発実施主体により構成されており、一貫した研究開発の推進体制を構築するものである。

このような研究開発の推進体制の構築に当たっては、推進本部の任務の明確化及びそれに伴う主導性の確保が重要である。そのため、実施戦略において、その部分を明確に記載した。

推進本部は、分野・機関を横断した効果的・効率的な研究開発の実施について一義的な責任を有し、フォーラムの開催などを通じてデータ保有者、データの統合を担う者及びユーザーからの意見を聞くとともに、必要に応じ、データ保有者、データの統合を担う者を構成員に追加することとしている。また、データの保有者、データの統合機能を担う者、ユーザーが一同に会し、意見交換を行うフォーラムを定期的を開催することとしている。

また、各研究実施主体においても、実施戦略に基づき研究開発を実施する体制を構築したところである。

(3) 運営の妥当性

これまで、各分野の研究開発が別々に行われてきたところであるが、国家基幹技術「海洋地球観測システム」は、分野・機関横断的な研究開発を実施する新たなシステムを構築するものであり、一体的な実施戦略を策定するとともに不断の見直しを実施する運営を行う。そのため、今後の運営に当たっては、評価体制及びそれを反映させるための体制を整備することが重要である。

研究開発に当たっては、実施戦略を通じて全体として一貫性のある運営を行うが、実施戦略は策定時点の状況を踏まえたものであり、研究開発の進捗状況を踏まえた検討、個々のプロジェクトの中間評価などの機会を通じて、推進本部が適時に見直しを行う。実施戦略見直しに当たっては、宇宙開発委員会、次世代海洋探査技術委員会、地球環境科学技術委員会における専門的検討を踏まえつつ実施することとしている。また、プロジェクト全体のマネジメントについては、今後も科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会地球観測推進部会地球観測に係る国家基幹技術検討作業部会において、定期的（毎年度 1 回程度）にフォローアップを実施することとしている。